

大好きな街で、誰でも気軽にのぞける 「商店街の茶碗屋」でありたい

うつわのわ田
店主 和田 明子さん

世田谷線のゆったりとした空気感に惹かれて
「うつわ」のお店をオープン



山下商店街に佇む、沖縄やちむんや九州小島焼など、日常のご飯とお酒が各段においしくなる素敵な器を集めたお店が「うつわのわ田」。2018年にオープンして6年目を迎えます。店主の和田明子さんは、以前は会社員として異業種の仕事をしていたのですが、もっと小さな世界で親しみのある仕事をしたいと思って、大好きな器のお店を始めました。「私は25年くらい世田谷区に住んでいて、世田谷LOVE。自分が生活者としてこの沿線のよさをヒシヒシと感じていたし、こぢんまりとした商店街にある商店に憧れていたの、世田谷線沿線で物件を探しました。おいしい食べ物屋さんがあって、フレンドリーな雰囲気、古くから住んでいる人も新しく引っ越してきた人も混在している。がんばり過ぎない感じで、ゆったりした空気感がいいな、と思っていました」。

お店を構えるまでは山下商店街になじみがなかったという和田さん。「正直言って最初は他の街で探していたんです。この街を選んだ理由は物件が良かったから。駅から近くて日当たりも良く、新築で内装も自由にしていと言われ、条件の良さで、もともと狙っていた街はあきらめました(笑)」。

物件の条件で選んだ和田さんでしたが、結果的には山下商店街で大正解！「商店街の方がイベントなど何かしらあると声をかけてくださり、本当によくしてもらえて、とてもお世話になっています。商店街って、こんなに活動しているんだということも知りました。さまざまなイベントに参加するうちに商店街の運営の楽しさを感じた和田さんは、3年前から商店街の理事を務めるようになりました。「まだまだお手伝い程度ですが、少しずつ恩返しをしていきたいと思っています」。



「のきさきマーケット」では、7月の風鈴市など、季節感を大事にしている。年2回の「ミニやちむん市」は整理券がでるほど大好評。お目当ての作家の作品を狙って遠方から来店する人、やちむんを初めて見たという人など、客層は幅広いという。

商店街のつながりのなかで
さまざまなイベントに参加して集客

オープン当初は集客に苦労した和田さんですが、商店街とのつながりのなかで発信力や企画力もつけていったといいます。「小さい店だから、まずは知ってもらうことが大事。こだわりの器を扱っていることもあり、SNSやホームページで発信することで遠方から来てくださるお客さまも多くなります。でも地元の商店街の人たちに使ってもらって、口コミで広がっていくことにも力を入れています。商店街の飲食店さんで食器を使ってもらって、そのお店に置いたショップカードを見たお客さまが『〇〇で見て、かわいかったから』と来てくださることもあるんですよ」。

商店街のイベントの他に毎月1回、近隣の10店ほどの有志で「のきさきマーケット」を開催。毎月各自でテーマを決めて、普段とは違うものを店先に並べているそうです。「このお店でイベントをやってるよ、あそこのお店でクッキー売ってるよ、とお互いに宣伝しあうことで、お客さまが回遊してくださるんです。他店とコラボしたり、軒先に占いコーナーをつくったお店もありましたね。毎月何をやるか考えるのは大変ですが、企画力を養うことができていると思います」と和田さん。独自の発想で、「ミニやちむん市」や「九州よかもん市」、「初売り」など、定期的にさまざまな企画を開催しています。

お店の看板商品のひとつが「招き猫の箸置き」。豪徳寺は招き猫の発祥の地なので、和田さんがデザインしたオリジナルの箸置きをオープン当初から作っていて、「世田谷みやげ」にも選ばれた人気商品です。山下商店街は「せたがやPay」の加盟店の増加にも力を入れているそうで、和田さんのお店でも真っ先に導入。「30%ポイント還元キャンペーンのときは行列ができるくらいお客さんが来て、ものすごい効果を実感しましたね」。

「商店街の茶碗屋」でありたいという和田さん。「ここでお店をやっていたり、住んでいたりする人は、みんなこの街が大好き。みんな知り合いみたいで、温かくて。大好きなこの商店街で、敷居が低くて誰でも入りやすい、気軽なお店を営んでいきたいと思っています」。



外国人観光客のおみやげとしても大人気の招き猫の箸置き。商店街の飲食店でも使ってもらっていて、お店のリクエストで豆皿も作った。

うつわのわ田 | 豪徳寺1-49-2トリアドムス102
<https://utsuwanowada.jp/>

